

松岡樹氏所蔵古瓦の調査

平城宮跡発掘調査部

船橋遺跡は、大阪府藤井寺市と柏原市にまたがる縄文時代から歴史時代にいたる複合遺跡である。当研究所では、以前より、松岡樹氏が所蔵される船橋遺跡出土資料の調査を行っており、今回、その古瓦の一部を紹介する。

1・2は単弁八弁蓮華文軒丸瓦。1は、円い花卉端がわずかに反転し、丸くふくらんだ小さい中房をもつ。瓦当裏面下縁に土手状の凸帯が巡る。1と同範で、外縁を省いた例もある。2の弁は尖った凹弁で、弁中央に凸線が走る。3は忍冬弁六弁軒丸瓦。弁を輪郭線で表わし、中に忍冬文をおく。外縁上に凸鋸歯文があるようだ。4は鬼面文軒丸瓦。左右に延びる忍冬文を吐き出し、他の破片では額にも五葉の忍冬文をおくことがわかる。5～7は複弁蓮華文軒丸瓦。5は八弁で、外区には雷文が巡る。6・7は弁を線で表わし、外区は珠文と線鋸歯文を重ねる。6が七弁、7は八弁である。7は平城宮6282型式Ba種と同範。8は三重圏の重圏文軒丸瓦。瓦当側面にカセ型の木理圧痕が残る。9は偏行唐草文軒平瓦。顎部の破片である。10・11は、小字形の中心飾りをもつ五回反転の均整唐草文軒平瓦。11は平城宮6721型式C種と同範で、7と組み合う。ともに平城宮軒瓦編年第Ⅲ期（天平17年～天平勝宝年間）に編年される。（花谷 浩）